

サステナブル ビジョン
2050 Sustainable Vision 那須塩原
～環境戦略実行宣言～

について

■ 国内外の動向

国連生物多様性条約第 15 回締約国会議 (COP15) において採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」や、それを踏まえた「生物多様性国家戦略 2023-2030」において、2030 年目標としてネイチャーポジティブ (自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること:「自然再興」) の実現が掲げられている。

■ 内容

社会・経済の基盤である生物多様性の損失を回復に向かわせる (ネイチャーポジティブ) には、脱炭素社会の実現 (カーボンニュートラル)、循環社会への移行 (サーキュラーエコノミー) といった取組と相互に連携しながら取り組むことが重要である。

環境部門において更なる連携を図り、これらの相乗効果による同時実現を目指すため、「ネイチャーポジティブ」、「カーボンニュートラル」及び「サーキュラーエコノミー」の 3 つを柱として環境施策を推進していくことについて、2050 年における本市のあるべき姿とその取組を、

サステナブル ビジョン
2050 Sustainable Vision 那須塩原
～環境戦略実行宣言～

として公表するものである。

サステナブル ビジョン
2050 Sustainable Vision 那須塩原
～環境戦略実行宣言～

ネイチャー ポジティブ
Nature Positive

- ◆ 国立公園の保護と利活用の好循環を創出
- ◆ 重要里地里山の価値を再認識
- ◆ 野生生物との共生社会を実現

3 施策の融合による持続可能な環境都市「那須塩原」の実現

カーボン ニュートラル
Carbon Neutral

- ◆ 再生可能エネルギーの最大限導入
- ◆ デコ活 (脱炭素につながる新しい豊かな暮らし)
- ◆ 温室効果ガス吸収源保全

サーキュラー エコノミー
Circular Economy

- ◆ 廃棄物の資源化の推進
- ◆ 製品等の長期利用・有効利用
- ◆ 官民連携によるリニューアブルの推進

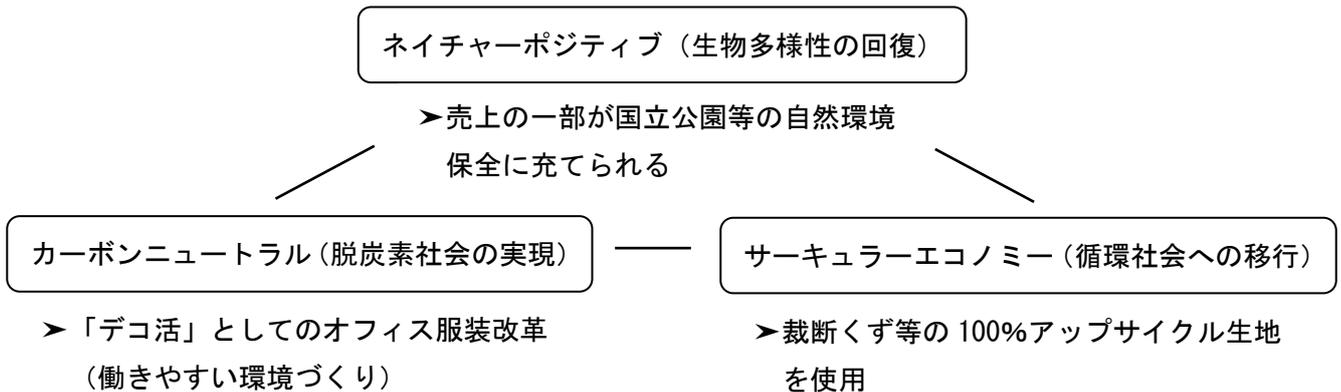
■内容・スケジュール

【具体的な取組】

各分野における取組については、別添「連携して取り組む3つの柱」のとおりである。

なお、第1弾として、本市の取組に賛同した「Parks Project Japan」により、本市が位置する日光国立公園と那須野が原をイメージしたTシャツが製作される。

＜Tシャツ製作と環境施策（3つの柱）との連携＞



■取材ポイント

上記3つの環境分野の連携により相乗効果（シナジー）を生み出し、これらの課題解決の同時達成を目指す本市の2050年ビジョンとして公表するものであり、県内自治体では初めてである。なお、本件は「ネイチャーポジティブ宣言」としても位置づけるものであり、自治体では全国で3番目、県内では初である。

また、今回のTシャツ製作は、国が展開している「デコ活」の取組の1つ（オフィス服装改革）であるとともに、上記のとおりネイチャーポジティブやサーキュラーエコノミーにもつながる取組である。

連携して取り組む3つの柱

ネイチャーポジティブ

Nature Positive (生物多様性の回復)

◆国立公園の保護と利活用の好循環を創出

⇒国立公園区域や保護規制計画の変更・拡充、管理の充実化、それに伴う利活用の活発化による「那須」ブランドの確立と日光国立公園における那須地区のプレゼンス向上を推進。誇れる国立公園づくり。

◆重要里地里山の価値を再認識

⇒“那須野が原”という単位で重要里地里山に指定されている価値の再認識と更なる向上を図る。那須塩原市版自然共生サイトの設立。環境省及び国際機関へのOECM申請。50by30目標（2030までに市の面積の50%以上を保全された状態にする）の実現

◆野生生物との共生社会を実現

⇒鳥獣等の個体管理（農作物被害対策、希少鳥獣の保全）、外来種駆除、希少種保全など一括して実施することで、俯瞰的な視点から野生生物との共生社会の実現を目指す。

カーボンニュートラル

Carbon Neutral (脱炭素社会の実現)

◆再生可能エネルギーの最大限導入

⇒ゼロカーボン街区を構築し、地域の脱炭素化、経済循環、災害対応力強化に取り組む。地域脱炭素化促進事業を実施する区域を設定し、地域に貢献する再生可能エネルギーの導入に取り組む。

◆デコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らし）

⇒快適な乗り心地で経済的な電気自動車の普及促進を図り、運輸部門の温室効果ガス削減に取り組む。働きやすい服装を選択できるオフィス服装改革により、省エネや脱炭素ワークスタイルへの転換に取り組む。

◆温室効果ガス吸収源保全

⇒森林の適正な管理・保全や緑地の保全を促進し、温室効果ガス吸収量の確保に取り組む。

サーキュラーエコノミー

Circular Economy (循環社会への移行)

◆廃棄物の資源化の推進

⇒拠点によるプラスチック製品の資源回収を行い、再資源化の実証及び実装に取り組む。

◆製品等の長期利用・有効利用

⇒粗大ごみ回収物の再生品販売や民間事業者との連携により、製品のリユースを推進する。

◆官民連携によるリニューアブルの推進

⇒再生材や再生可能資源を使用した製品の積極的な活用により、製品原材料の再生材や再生可能資源への切替えを推進する。